

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Predictors of non-response to successive waves of surveys in the Japan Environment and Children's Study during the 3-year postpartum period: A longitudinal cohort study

和文タイトル:

エコチル調査における産後 3 年間の継続調査での質問票無返送の予測因子: 縦断的コホート調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMJ Open

年: 2022 DOI: 10.1136/bmjopen-2021-050087

筆頭著者名: 城川 美佳

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

全国規模で実施されている出生コホート研究であるエコチル調査のデータを用いて、出産後 3 年間継続的に実施された質問票調査にて、調査参加者が質問票を返送しないこと(以下、無返送)に関連する要因について調査時期による変化を検討した。

方法:

エコチル調査に参加登録した妊婦 103060 名から、複数回の参加同意、多胎、流産、死産、および同意撤回した者を除外し、88489 名を対象とした。妊娠期から産後 1 か月時までに収集した参加者の社会経済状況、健康状態、健康関連行動、生まれた子どもの健康状態と生活状況、パートナーの参加状況を独立変数、3 歳時までに半年おきに 6 回送付した質問票の返送状況を従属変数としてロジスティック回帰分析を行った。

結果:

ロジスティック回帰分析の結果、母親の出産時年齢、妊娠中の不安、教育歴、出産後の喫煙状況と飲酒状況、主観的健康度、対象児の兄弟の数、子どもの主たる世話担当者、パートナーの調査への参加状況は、6 回全ての質問票送付の返送状況と有意に関連していた。産後うつ、出産後の健康状態、世帯収入と質問票返送状況との関連は、一部の調査時期でみとめられた。この結果を用いて作成した ROC 曲線の AUC は全ての調査時期で 0.7 程度を示し、これにより全 6 回の返送状況の一致率は約 70%であることが示された。

考察(研究の限界を含める):

6 回の質問票送付のいずれにおいても、母親の年齢が高いほど返送率が高かった。また、出産後の喫煙および子どもの兄弟の数が多いことは、調査票の無返送と関連していた。ロジスティック回帰分析の結果によるモデルに基づく返送状況の一致率は、6 回の調査全てで約 70%であり、ベースライン調査で収集された情報から出生後最初の 3 年間の返送状況を予測できることを示唆している。なお、本研究の限界として、観察期間が短期であること、研究参加者のみのデータであること、母親の社会環境や突発事象による影響は検討されていないことなどが挙げられる。

結論:

本研究の結果から、出生コホート調査においては、ベースライン調査のデータを用いて無返送者を予測することで、返送方法の検討、リマインドの実施、適切なインセンティブの提供を行い、無返送を減少させる可能性があることが示唆された。